

技法による製作と考える。鉄斧18は、他の鉄斧に比べては肩部が張り、P・Q点にズレがあることからB I 技法と見る。鉄斧19も18と同様であり、袋部内刃部端面が平坦であることからB I 技法と考える。

X線写真では技法の差を捉えることはできなかったが、小型鉄斧10・18・19はB I 技法、大型鉄斧17はB II 技法による製作と考えられ、これらの鉄斧がB 技法で製作されたとすれば、造墓集団傘下の鍛冶従事者が鍛接という最先端の技術を有していたことになり、鉄器製作においても当地が渡来系の文化を受容できる背景にあったことは想像に難くない。

#### 鉄鋸の副葬について

高田氏の論考(文12)によれば、1号墳棺内から出土した鉄鋸2は鎬式のII式に属すと考えられ、近畿を中心とした古墳に広く鉄鋸が副葬され始める時期にあたる。鉄鋸2の刃部は斬り払う剣形を呈しており、II式でも古い形式を留め、I - II式間の境を5世紀中葉に想定している高田氏の編年観は、他の棺内出土鉄器の時期と矛盾しない。ただ、鉄鋸が他の鉄器と一線を画すのは、古墳時代中期の鉄器大量副葬古墳を見ても鉄鋸はわずかな割合しか副葬されず、殺傷用具としての有用性を期待されない武器ゆえ、「対人用」ではない「僻邪」を目的として副葬されたと指摘されている点である(文12)。

鉄鋸が出土した古墳には、和歌山県大谷古墳、大阪府高井田山古墳、京都府奈具岡北1号墳、兵庫県宮山古墳、同県カヌス塚古墳など、いずれも希少性の高い朝鮮半島系の文物を共伴する著名な古墳が際立ち、高田氏は半島系の垂飾付耳飾をもつ古墳42基中19基が鉄鋸を共伴している事実を重視している。

県内の鉄鋸をもつ古墳を概観すると、嶺北地方では福井市天神山7号墳(円墳:径52m)において割竹形木棺内から金製垂飾付耳飾1点と鉄鋸3本が出土し、福井市宝石山古墳(円墳:径20m)からは舟形石棺棺外から鉄鋸8本以上が出土している。嶺南地方では、高浜町二子山3号墳(前方後円墳:全長26m)で北部九州系横穴式石室から鉄鋸1本が出土し、高浜町行崎古墳(前方後円墳:全長34m)で畿内型横穴式石室から鉄鋸1本が出土している。若狭町向山1号墳(前方後円墳:全長48.6m)では北部九州系横穴式石室からTK208期の須恵器と金製垂飾付耳飾1点に伴って鉄鋸3本が出土している。若狭町西塚古墳(前方後円墳:全長74m)は豎穴系横口式石室と考えられ、半島系の遺物を豊富に含み、金製垂飾付耳飾2点と共に若干数の鉄鋸の存在が確認されている。越前に比べて若狭地方の大・中首長クラスの古墳の方が半島系文物の導入に積極的な動向を示している。特殊な例としては、越前市茶臼山古墳群中の馬塚2号墳(円墳:径8.4m)(文7)があげられ、SK25と時期・形態が類似する土坑墓からTK43期の須恵器に伴い鉄鋸1点、石突1点を検出しており、6世紀後葉の段階においても、鉄刀や鉄鏃では代替できない鉄鋸の価値が族長層まで依然浸透していることが読み取れる。

#### 第3節 南越盆地の中期古墳

南越盆地における大型古墳を概観すると、朝日山古墳群中の経ヶ塚古墳(前方後円墳:全長74m)が前期古墳として最大規模を測り、朝日山1号墳(前方後円墳:全長54m)は中期初頭の古墳と想定されている。鯖江市兜山古墳(円墳:65m)が2段築成の5世紀代の古墳として考えられ、規模に限れば、福井平野以外の地方では大首長墓に相当するが、段築・葺石・埴輪などの外部施設が整っていないことや、盆地を基盤としながらも福井平野から隔離されていないという地理的条件から、被葬者は永平寺・松岡古墳群を築いた福井平野の大首長墓の傘下にあったと考えられ、突出した要素を見出せないできた(文17・18)。

近年になって、鯖江市教育委員会の調査により、鯖江市兜山古墳(円墳:65m)に近接した兜山北古墳(帆立貝古墳:全長23.7m)(文25)が葺石をもち、MT15期の須恵器が確認され、先行して構築された兜山古墳が5世紀代の古墳であることがほぼ確実視されるようになり、鯖江市今北山古墳(前方後円墳:

全長75m)も永平寺町手繅ヶ城古墳に先行する4世紀前半の古墳であることが報告(文9)されるなど、南越盆地の古墳の様相を具体的につかむ資料が蓄積されつつある。中でも越前町が平成21年度から継続調査をしている番城谷山5号墳(文23・24)は、南越盆地を一望する標高約150mの尾根に築かれた全長約55mの帆立貝形古墳、もしくは全長38mの円墳であることが想定され、葺石・埴輪を備え、墳頂部には2基の木棺が存在することが確認されている。遺物は墳丘裾から5世紀中葉の円筒埴輪や5世紀前葉から中葉の陶質土器の甕、杯蓋3、杯4、高杯9、罐2、把手付鉢1、器台1が確認されており、少なくとも北陸においてこれだけの初期須恵器をもつ古墳は前例がなく、正報告が待たれる。

天王前山古墳群の5・1・2号墳は、番城谷山5号墳を盟主墓とした族長墓の可能性も秘めており、その遺物は渡来系文化の影響を多分に受けていることが確認できた。特に1号墳の被葬者は、「鉢の副葬」という形で半島とのつながりを体現できた、有力な構成員であったと考えられる。3号墳構築以降も造墓集団のムラに渡来系文化の影響が根強く認められ、従来、墳丘規模でしか比較できなかった南越盆地の中期古墳について造墓意識の基底に渡来系文化が浸透していることを明らかにすることができた。

## 注

1. ベンガラ入り須恵器杯は、三重県谷山古墳、群馬県下谷古墳群1号墳などで報告され、福岡県梅頭窯跡では墓に転用した窯体からの出土例が報告されている。兵庫県西神第9地点ではベンガラ入り須恵器壺が確認されている。近県の石川県寺井山3号墳(文28)ではベンガラ入り須恵器杯に貝殻3点が伴っていた。兵庫県の太市中4号墳、見野長塚古墳にも類例が見られ、ベンガラと貝殻に特別な意味を付与している点がある。
2. 文献10以外に以下13例を確認した。石川県寺井山3号墳、同県下開発茶臼山古墳群西支群12号墳 同県大根布砂丘、東京都柴又八幡神社古墳、大阪城下町遺跡92-1・93-7包含層、大阪府一須賀I-4号墳・I-5号墳、大阪府大庭寺遺跡河川(56-OR)岸辺A群、兵庫県平松片山古墳、和歌山県船戸山6号墳、山口県多々良寺山古墳群、福岡県栗田谷2号墳。
3. 文献4の写真・表の上河北遺跡出土の記載は誤りである。昭和48・49年度に平安京調査会が担当した糞置遺跡の包含層出土遺物である。当時の諸事情により未公表となっている遺物が多い。

## 参考文献

1. 朝日町誌編纂委員会編『朝日町史』通史編 朝日町役場 2003年
2. 赤澤徳明編『大塩向山遺跡 山腰遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第96集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2007年
3. 入江文敏『若狭・越古墳時代の研究』学生社 2011年
4. 石川県立郷土資料館『須恵器』1981年
5. 岡戸哲紀編『陶邑・大庭寺遺跡V』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第10集 大阪府教育委員会 財團法人大阪府文化財調査研究センター 1996年
6. 金田善敬「有袋鉄斧の製作技法の検討」「古代吉備」17集 古代吉備研究会 1995年
7. 斎藤秀一編『茶臼山古墳群』武生市埋蔵文化財調査報告21 福井県武生市教育委員会 2001年
8. 斎藤優『越前鯖江市天神山古墳群』鯖江市教育委員会 1973年
9. 鯖江市教育委員会文化課「今北山古墳の発掘調査成果について」鯖江市教育委員会 2014年
10. 柴垣勇夫「装飾須恵器の特徴とその分布」「秋期特別企画展 古代の造形美 装飾須恵器展」愛知県陶磁資料館 1995年
11. 鈴木篤英『漆谷遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第31集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008年
12. 高田貴太「古墳副葬鉄鉢の性格」「考古学雑誌」第45巻1号 1998年
13. 田嶋明人「漆町遺跡出土土器の編年的考察」「漆町遺跡I」石川県教育委員会 1986年
14. 田嶋明人「古代土器編年軸の設定」「シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題(報告編)」1988年
15. 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981年
16. 富山正明編『林・藤島遺跡泉田地区』福井県埋蔵文化財調査報告第106集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009年
17. 中司照世「北陸」「古墳時代の研究」11地域の古墳II東日本 石野博信他編 雄山閣 1990年
18. 中司照世「日本海中部の古墳文化」「新版古代の日本」第7巻 中部 小林達雄・原秀三郎編 角川書店 1993年
19. 中野咲「2 近畿地域・韓式系土器集成」「渡来遺物から見た古代日韓交流の考古学的研究」和田晴吾編 2007年
20. 仁科章 木下哲夫「柄川遺跡」「福井県史」資料編13考古一本文編一 福井県 1986年
21. 野島永「有肩鉄斧からみた古墳時代の鉄器生産」「初期国家形成過程の鉄器文化」雄山閣 2009年
22. 福井県教育委員会『福井県遺跡地図』福井県 1993年
23. 堀大介「番城谷山5号墳」「第29回福井県発掘調査報告会資料」福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2014年
24. 堀大介「第二節 海を渡った陶質土器」「海は語る」越前町教育委員会 2013年
25. 前田清彦編『兜山北古墳・般若寺跡』鯖江市埋蔵文化財調査報告第3集 福井県鯖江市教育委員会 2001年
26. 御嶽貞義「朝日町域の首長墳系列について」「朝日町文化財調査報告書I」朝日町文化財調査報告書第1集 朝日町 2001年
27. 山田邦和「北陸地方の須恵器-宿布古墳群出土須恵器の検討を通じて-」「福井市宿布古墳群」川西宏幸編 福井県教育委員会 財團法人古代学協会 1985年
28. 望月精司編『額見町遺跡』I~V串・額見地区産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1~5 小松市教育委員会 2006~2010年
29. 吉岡康暢「第3節三道山南尾根の古墳」「加賀能美古墳群」吉岡康暢・河村好光編 石川県寺井町・寺井町教育委員会 1997年